

5

カンボジアスタディーツアーでの体験を

国際理解教育の学習に活かす

報告者 東京都大田区立大森第八中学校 渡邊 恵美 先生

1. ポイント

学生時代から開発教育や国際理解教育の勉強を続けてきた。学級担任になってからは世界の現状や教育事情などさまざまなことを生徒に伝えてきた。しかし、一度も途上国に足を運んだことがない私は、授業を行なう度にリアリティーを欠いているような物足りなさ、また、きちんと真実を生徒に伝えることができているのか、不安な気持ちをしだいに抱くようになっていった。「実際に現場に行き、この目で感じたこと、学んだことを生徒たちに伝えたい」という思いを抱き、ユニセフのカンボジアスタディーツアーに応募した。

2. 実 践

- カンボジアスタディーツアーの目的は、
- 現地の子どもたちの状況、支援事業の取り組みを視察する。
 - 視察での体験をもとに、学校や地域での学習会や広報活動を行う。



川で遊ぶ子ども

ことであり、カンボジアでのユニセフ活動の視察は、子どもと人権・水と衛生・保健センターの役割など様々であった。

①視察の日程（7月24日～31日）と内容

月 日	場 所	視 察 内 容
7月 25日	プノンペン	ユニセフのカンボジア事務所にて代表とコミュニケーションチームからのブリーフィング カンボジアにおけるユニセフの事業（水と衛生、保健、子どもの保護、教育等）についてのブリーフィング トゥースレン博物館訪問 コンポンスプー州へ移動
7月 26日	コンポンスプー	地雷教育の視察 コミューン評議会訪問 家庭で行う幼稚園の視察
7月 27日	コンポンスプー	村の幼稚園の視察 水と衛生の事業の視察、家庭訪問 村の保健支援グループの訪問
7月 28日	コンポンスプー	コンポンスプー州立病院を訪問、保健施設の視察 コンポンスプー州のコミュニケーション評議会を訪問 コンポントムへ移動
7月 29日	コンポントム	保健センターを訪問 子どもに優しい学校を訪問シムリアップへ移動 ユニセフスタッフとのデブリーフィング

②授業実践

今夏の視察を通して学んだことを生徒に伝え、支援の難しさ、大切さ、自分たちに何ができるのかを一緒に考えていくため、次のような授業展開を図った。

【指導計画】

第1時	世界の現状について知ろう。 現在世界の人口は？そのうち途上国は何パーセント？学校に通っていない子どもは何%？など、世界の現状についてクイズを使って紹介した。
第2時	カンボジアクイズ 世界の中の日本、カンボジアの位置の確認、人口、教育の現状などをクイズ形式で紹介した。その後、国境なき子どもたち「トラフィックト・チルドレン～親に売られた子どもたち」DVDを使ってカンボジアの少年少女の現状を考えさせた。
第3時	Photo language カンボジアで撮ってきた写真を6枚印刷し、6人ごとのグループにそれぞれ配布した。「何をしているところ？」「日本の学校との違いは？」など写真を見て気づいたことをグループごとに話し合わせた。 感想を書く。

授業で用いた写真と感想文はその後3月末までクラス掲示を行った。また、ユニセフ手帳を用いて全校で読み合わせをし、募金ポスターを掲示した。生徒会の呼びかけにより、一週間ユニセフ募金を行い、集まったお金を募金した。



雨水をためたかめの水で手を洗う子



病院内の様子

【生徒の感想】

- ・予想とは少し違うカンボジアの現状がわかりました。厳しさがわかったけれど、希望は、まだ皆が笑っていたことあると思います。
- ・病院ではひとつのベッドを皆が使っているのを見て、嫌がってすらいないのも日本と違うところだと思いました。学校や幼稚園でも皆で仲良く遊べることはとてもいいことだと思いました。
- ・テレビなどでは映されない現状がたくさんありました。地雷なんてさけるのが普通なのに、自分の命や手足を失う可能性を知りながら近づいて、集めてお金をかせぐ。お金を稼ぐことがいかに大変か今まで以上に知ることができました。
- ・自分が思っていたよりもはるかに危ない生活を送っているという事実に驚きました。教育設備や医療設備がしっかりしていないということも、詳しく知ることができました。このような生活を送る人々のためにも、ユニセフ、赤十字などを通して支援していきたいと思います。
- ・貧しい子どもたちの写真を見て、自分たちはこんなにも恵まれていることがわかった。きれいな水やお金があることを当たり前に思っていた。これからは自ら積極的に募金などに参加したいと思う。

3、まとめ

このツアーを通してここに書ききれないほどの多くのことを学ぶことができた。学校に加えて保健センター、病院、村落評議会の訪問等もこの国これから成長を期待することができた。また、ただ一方的な支援をするのではなく、国が自ら問題に取り組み、成長できるようにサポートを行っているユニセフの姿勢に改めて感動した。ここで学んだことを生徒に伝え、支援の難しさ、大切さ、自分たちに何ができるのかと一緒に考えていきたいと感じている。このツアーに関わってくださったすべての方々に深く感謝し、この経験を今後の教師として、また一人の人間としての生きる糧としていきたい。



学校の休憩時間に仲良く遊ぶ子どもたち